

第 2 1 回 東京都公金管理アドバイザー会議 議事要旨

日 時	令和 5 年 7 月 31 日 (月) 14:00 ~ 15:55
場 所	都庁第一本庁舎南塔 33 階 特別会議室 S1
出席者	委員) 渥美委員、今井委員、内山委員、根本委員 計 4 名 事務局) 須藤局長、有金管理部長、菊地総務課長、池永公金管理課長、宮良資金運用担当課長、春日井統括課長代理 (企画調査総括担当)、松原課長代理 (運用管理担当)、山本主任、鈴木主任、斎藤主事 計 10 名
欠席者	なし
議 題	(1) 邦銀の本決算を踏まえた評価について (案) (2) 外銀の本決算等を踏まえた評価について (案) (3) 債券発行体の動向等を踏まえた評価について (案) (4) その他 (報告事項等)
要 旨	<p>(1) 会計管理局長挨拶</p> <p>(2) 第 21 回東京都公金管理アドバイザー会議の公開・非公開の取り決め 本会議は、東京都公金管理アドバイザー会議設置要綱第 5 条で原則公開と定めているが、委員の意見を聞いた上で、非公開とすることができると規定している。 議題の内容を踏まえ、委員全員が非公開での実施が適当と表明したことを踏まえ、今回は非公開とすることを決定。</p> <p>(3) 議題 (1) 邦銀の本決算を踏まえた評価について (案) 事務局 預金先金融機関 (邦銀) の経営状況について、本決算を踏まえ健全性等の観点から分析を行い、預金先金融機関 (邦銀) の評価等を報告した。 委員 預金先金融機関 (邦銀) の評価内容とそれに応じた預金の対応については、適正なものと考えます。 委員 海外においては、金利の引き上げが予想より長く続く見通しもあるため、引き続き外債の評価損は銀行経営における大きなリスク要因となるが、それに加え、日本では YCC の運用が柔軟化されたこともあり、今後は、国内債の評価損の動向にも警戒が必要となってくると考えます。 委員 好調だった 3 月期本決算の収益については、日銀による地域金融機関への支援策やゼロゼロ融資からの収益などに支えられていた側面もあると考えられるため、今後の決算は、それらが剥落する影響も踏まえて分析することが重要でないかと思われる。</p> <p>(4) 議題 (2) 外銀の本決算等を踏まえた評価について (案) 事務局 預金先金融機関 (外銀) の経営状況について、本決算等を踏まえ健全性等の観点から分析を行い、預金先金融機関 (外銀) の評価等を報告した。 委員 預金先金融機関 (外銀) の評価内容とそれに応じた預金の対応については、適正なものと考えます。</p>

(5) 議題 (3) 債券発行体の動向等を踏まえた評価について (案)

事務局 債券発行体の経営状況について、決算等を踏まえて、健全性等の観点から分析を行い、債券発行体の評価等を報告した。

委員 債券発行体の評価内容とそれに応じた債券運用の対応については、適正なものと考ええる。

委員 銀行の預金受入ニーズは、依然として大きくない状況であると思われるため、短期で運用すべき資金を除き、柔軟に運用し、債券購入を増やしていけば良いのではないかと考える。

(6) 議題 (4) その他 (報告事項等)

事務局 預金先金融機関の経営状況等をモニタリングする際の視点と、万一、健全性が低下した場合などを想定した対応案等について説明した。

委員 対応案については、適切なものであると考える。

委員 有事の際にも、迅速に預け替えを行うなどの的確な対応ができるよう、あらかじめ、意思決定等を含む一連のプロセスを確認・想定しておくのではないかと考える。

委員 邦銀とはリスクの動きが異なると想定される外銀は、預金先の多様化を図るのに有効な選択肢となり得ると思われることから、慎重に対応する必要はあるものの、預金先金融機関として取引の拡大を検討することもリスク分散の一つの重要な手法として有効ではないかと考える。

委員 この先、日本においても金利環境が変わり、金融機関の預金受入スタンスに変化が生じる可能性もあることから、日頃から情報収集を密に行い、新規の預金先確保や、預金額の拡大などについて、機を捉えた対応ができるようにしておくことも大切なのではないかと考える。

事務局 邦銀・外銀それぞれの資金調達状況について報告した。

委員 各行の調達資金全体における、都預金の位置づけが把握でき、現状として、各預金先金融機関における流動性に大きな影響を与える状況にないことを確認できた。

事務局 本年3月に欧米で発生した金融不安の分析・検証などについて報告した。

委員 今回見られたように、決算の数字や自己資本などに大きな問題がないにも関わらず、急に経営が悪化するようなことは、今後もあり得ると認識しておくことは必要であり、各銀行のビジネスモデルを踏まえた分析も重要になってくるのではないかと考える。

委員 レピュテーションリスクなどにも関心を払いつつ、必要に応じて、実態調査や金融機関へヒアリングを行うなど、機を逸さない適切な対応ができるよう、様々な想定をしておくことも重要ではないかと考える。

以上